

体育授業を通じた児童生徒の内面の成長に向けて

道教委が令和4年2月に公表した「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査『北海道版結果報告書』」では、全国平均や体力合計点が高い都府県と比較し、「挑戦心」や「自己肯定感」など、内面に関わる質問項目に対して、北海道は、肯定的な回答をしている児童生徒の割合が低いことや、これらの児童生徒の内面は、体力・運動能力との間に一定の相関が見られるということが明らかになったところです。

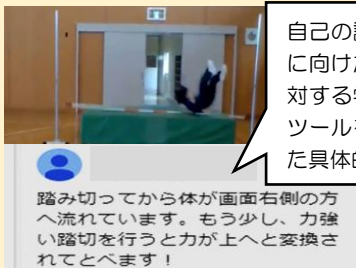
各学校においては、体育・保健体育授業において、本資料を参考に児童生徒の「挑戦心」や「自己肯定感」の育成に向けた授業改善に努めるようお願いします。

体育授業を通じた児童生徒の内面の育成に向け、授業で大切にしてほしい2つのポイント



【ポイント①】

授業における様々な場面で、子どものよいところを褒めたり、認めたりしてあげることが大切！



自己の課題解決に向けた取組に対する学習支援ツールを活用した具体的な評価

踏み切ってから体が画面右側の方へ流れています。もう少し、力強い踏み切を行うと力が上へと変換されてとべます！



撮影した動画を一緒に確認し、それぞれの課題に応じた動きのポイントを個別に具体的かつ丁寧に説明

児童生徒の取組の成果に対する教師からの価値付け

はじめさんが、かなり遠くからふみきっていたけど、上手に跳べていた。自分ももっと遠くから踏み切りができればと思う。

タイムが速くなってうれしい。この調子でラストも頑張りたい。

よく見ていたね。遠くから踏み切れると、上に跳ばないから無駄が減って、もっといいタイムが出せるはず！

おお！おめでとう！何に気を付けたらタイムが良かったのかな？

● 子どもは「褒められたい！」「認められたい！」

子どもは子どもなりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」とし、「褒めてほしい」と考えています。単なる「できたからよかったね」、「できなかったから次がんばろうね」と評価するだけではなく、**子ども自身が単元開始前に考えた目標や課題解決に向けて工夫する点などを把握し、現時点でどこまで達成できているのかを具体的に評価してあげることが「褒める」場面では非常に重要となります。**



※ 【参考】生徒指導リーフ Leaf.18 『自尊心』？それとも『自己有用感』？（文部科学省 国立教育政策研究所）

【ポイント②】

単元を通して、「主体的な学び」や「協働的な学び」を意図的・計画的に設定しましょう！



動画遅延装置など、ICTを効果的に活用し、粘り強く自己の課題解決に向けて取り組む主体的な学びの設定



ICTを活用した仲間との対話を通して、自己の考えを広げたり深めたりするため協働的な学びの設定

課題：50m走の自分のタイムより速く走ろう

1組	名前	タイム	2組	名前	タイム
A		-1.01	F		-1
B		-0.31	G		-0.30
C		0.3	H		-0.95
D		1.4	I		-1.3
E		0.81	J		0.66
タイム差合計		-0.23	タイム差合計		-4.28
タイム差平均		-0.66	タイム差平均		-0.86

協働的な学びを創出するための学習形態などの工夫（例：グループ対抗ハードル走の設定）

「授業において、『主体的な学び』や『他者との協働』を行っている」と回答した子どもは、「挑戦心」、「達成感」、「規範意識」、「自己有用感」といった自己肯定感と関連の見られる項目に関する意識が高い傾向にあることから、学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが重要です。



※ 【参考】「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上（第十次提言）」（教育再生実行会議）